

タダノ

適用範囲		モデル名		AW-250TG-3	AW-250TG-4	AW-370TG-3	AW-370TG-4		
		仕様		STD仕様	STD仕様	STD仕様	STD仕様		
		適用号機		420465～	420482～	HE0228～	HE0313～		
		最大作業床高さ（m）		25.0	25.0	37.4	37.4		
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値				
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	7000H／走行リフ 7000H／ブーム全縮リフ	min ⁻¹	1700±25	—	1700±25	—	
		弁すき間 ※冷態時	吸気弁	mm	0.25	エンジンに異常を感じる場合は、エンジンメーカーへ依頼	0.25	エンジンに異常を感じる場合は、エンジンメーカーへ依頼	
			排気弁	mm	0.25		0.25		
		圧縮圧力		Mpa (kgf/cm ²)	2.8～3.2 (29～33)		2.8～3.2 (29～33)		
		※回転速度		min ⁻¹	300	300			
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り		mm	12	10～12	12	10～12	
		※ベルト押し付け力		N (kgf)	98 (10)	59～68 (6～7)	98 (10)	59～68 (6～7)	
	バッテリー	比重 ※液温20℃		—	1.22以上	1.22以上	1.22以上	1.22以上	
	走行装置	ホイール	ソリッドタイヤ	※摩耗量	—	ノーパンクタイヤ	ノーパンクタイヤ	ノーパンクタイヤ	ノーパンクタイヤ
		走行ブレーキ	制動距離		m	—	—	—	—
駐車ブレーキ		ドラムとライニングのすき間		mm	—	—	—	—	
	最低停止可能勾配		°	1/5勾配 11° 19′	1/5勾配 11° 19′	1/5勾配 11° 19′	1/5勾配 11° 19′		
ブーム	スライディングパッド部のがた	上下方向	mm	3以下	3以下	3以下	3以下		
		左右方向	mm	2以下	2以下	2以下	2以下		
		※スライディングパッド摩耗量	mm	—	—	—	—		
	ラック部底板へこみ（ ）は4段ブーム	セカンド	mm	3以下	3以下	4以下	4以下		
		トップ(サード)	mm	2.5以下	2.5以下	(3以下)	(3以下)		
		(トップ)	mm	—	—	2.5以下	2.5以下		
	局部へこみ 但し、へこみ長さは50mm 以上		mm	2以下	2以下	2以下	2以下		
	調整用ナット締付けトルク	縮側	サード トップ サード トップ	N・m (kgf・m)	伸縮ワイヤ 調整要領参照	伸縮ワイヤ 調整要領参照	伸縮ワイヤ 調整要領参照	伸縮ワイヤ 調整要領参照	
伸側									
作業装置	伸縮ワイヤたるみ	セカンド、トップ(サード)ブームの伸長差 ※ブーム水平状態でセカンドブームを全縮より約10cm 伸長する。		mm	10以下	10以下	10以下	10以下	
	平衡装置	①起伏上げ操作にて作業床の測定位置を決める。 ②作業床内の測定場所に水準器を置き、作業床基準値を測定する。 ③ストロークエンドまで起伏の上げ下げを10回行う。 ④測定位置へ起伏上げ操作で停止させる。 ⑤作業床の角度変位量を測定する。 上記⑤の状態よりスタートする。 ⑥ブーム起伏角を約10° 上げる。 ⑦測定位置へ起伏下げ操作で停止させる。 ⑧作業床の角度変位量を測定する。		°	1° 以下	1° 以下	1° 以下	1° 以下	
2° 以下					2° 以下	2° 以下	2° 以下		

—24—

ホイール式（内燃機式）

[illegible]

—25—

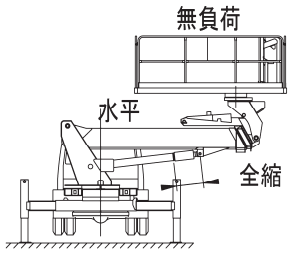
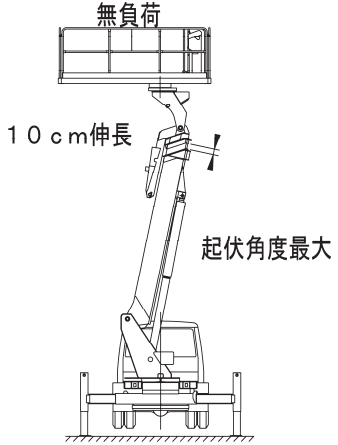
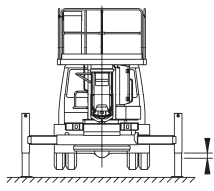
タダノ

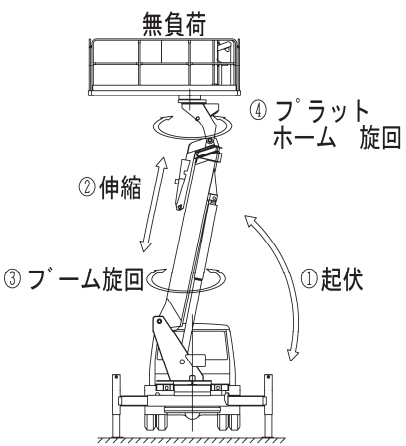
適用範囲		モデル名		AW-250TG-3	AW-250TG-4	AW-370TG-3	AW-370TG-4		
		仕様		STD仕様	STD仕様	STD仕様	STD仕様		
		適用号機		420465～	420482～	HE0228～	HE0313～		
		最大作業床高さ（m）		25.0	25.0	37.4	37.4		
区分	検査箇所	適用項目 ※条件		単位	検査基準値				
油圧装置	油圧ポンプ	No1 ポンプ	ブーム全縮水平、4輪に歯止めをし、下部操作で低速前進操作	Mpa (kgf/cm ²)	22.5±0.5 (230±5)	22.5±0.5 (230±5)	23.5±0.5 (240±5)	23.5±0.5 (240±5)	
			右ステアリングストロークエンド操作、アクセル低速※ジャッキ装置無し		15.7±0.5 (160±5)	15.7±0.5 (160±5)	17.2±0.5 (175±5)	17.2±0.5 (175±5)	
		No2 ポンプ	右ステアリングストロークエンド操作、アクセル低速※ジャッキ装置有り		15.7±0.5 (160±5)	15.7±0.5 (160±5)	17.2±0.5 (175±5)	17.2±0.5 (175±5)	
			油温		℃	40±5	40±5	40±5	40±5
		ポンプ回転数 ☆は走行リリーフ時 ★は7～m全縮リリーフ時。			高速	min ⁻¹	☆1700±25	★1700±20	☆1700±25
			低速	☆1025±25	★1000±20		☆1025±25	★1000±20	
	油圧シリンダー 作業床は無負荷レバー操作は上げ、伸び操作後中立、エンジン停止時の自然降下量	自然降下量 ※1(添付資料)	起伏 ※ブーム水平全縮状態	mm/10min	2以下	2以下	2以下	2以下	
			伸縮 ※起伏最大角度・ブーム約10cm伸長状態	mm/10min	3以下	3以下	3以下	3以下	
			平衡装置 ※ブーム水平全縮状態、セレクトバルブは開	mm/10min	1以下	1以下	1以下	1以下	
	安全装置	車体傾斜角 警報装置	ブーム起伏角 10° 以下		°	4.5±0.5以上	4.5±0.5以上	4.5±0.5以上	4.5±0.5以上
		ブーム起伏角 10° 以上		°	3±0.5以上	3±0.5以上	3±0.5以上	3±0.5以上	
走行規制装置		仕様により、モーメント・車体傾斜角・起伏角、作業半径による規制。個々の仕様により判定。		—	確認	確認	確認	確認	
作業範囲 規制装置		測定方法 ※4(添付資料)	規制装置 作業範囲規制 モーメントリミッタ	—	—	—	—	—	
				—	AMC3	AMC4	AMC3	AMC4	
タッチスイッチ		スイッチを作動させるバケット中央部のワイヤロープ変位量		mm	30±10	30±10	30±10	30±10	
速度規制装置		走行中にブーム起伏角度が10°を越える状態では低速モードとなる事を確認する。		—	確認	確認	確認	確認	
旋回警報装置 走行警報装置	ブーム旋回・走行操作を行うとブザーが断続音で鳴る。		—	確認	確認	確認	確認		
総合テスト	作動速度 ※2(添付資料)	起伏 ※ブーム全縮		上	s	50±5	50±5	52±5	52±5
		伸縮 ※起伏角度最大		伸	s	62±6	62±6	93±9	93±9
		旋回 ※起伏角度最大、ブーム全縮	右	s	75±8	75±8	75±8	75±8	
			左						
			右						
		バケット首振速度	左	s	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動	円滑に作動	
		前進 ※10m 区間、ブーム全縮 起伏角度水平、高速走行		s/10m	8±2	8±2	8±2	8±2	

注) 作動速度、ポンプ回転数および作業範囲規制装置の測定方法は諸条件等によって異なります。
詳細は、サービスマニュアルを参照して下さい。

ホイール式 (内燃機式)

[illegible]

※1. 油圧シリンダの自然降下量 1. 起状シリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム全縮状態で、起操作にて水平にする。 3) エンジンを停止する。 4) シリンダ（ロッド）にマーキングする。 5) 起状操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 ロッドの縮小量は2mm以内／10分 ※油温の高い時は行わないこと	
2. 伸縮シリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム起状角度最大で、伸操作にて10cm伸長する。 3) エンジンを停止する。 4) セカンドブームにマーキングする。 5) 伸縮操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 セカンドブームの縮小量は3mm以内／10分 ※油温の高い時は行わないこと	
3. ジャッキシリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム格納状態で、ジャッキ張り出し操作にてタイヤを浮かす。 3) エンジンを停止する。 4) ジャッキインナーにマーキングする。 5) アウトリガ操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 ジャッキインナーの縮小量は1mm以内／10分 ※油温の高い時は行わないこと	

※2. 速度測定方法 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) 作業車の作動範囲に障害物が無いことを確認する。 4) 各操作は旋回台で行う。 3) 油温は40±5℃で行う。 ①起状速度 1) ブーム全縮状態で、伏せ操作により「伏」エンドまで下げる。 2) 起操作により「起」エンド停止までの時間を測定する。 ②伸縮速度 1) ブームを全縮状態で、起操作により「起」エンドまで上げる。 2) 伸操作により「伸」エンド停止までの時間を測定する。 ③ブーム旋回速度 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。 2) ブーム旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。 3) ブーム右旋回、左旋回共に行う。 ④プラットフォーム旋回速度 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。 2) デッキ旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。 3) デッキ右旋回、左旋回共に行う。	
---	---

※4. 作業半径測定方法

〔測定機器〕

1. 角度計
2. 巻尺
3. 重錘
4. 水系

「測定例」

※測定値や測定方法は、機種によって異なります
また、同じ機種でも張り幅やウエイトの重量によっても異なります
詳細はサービスマニュアルを参照してください。

- 1) 高所作業車を水平堅土に水平に設置する。
(タイヤが浮いていることを確認する)
- 2) ブーム操作は、下部操作の低速側に行うこと。
- 3) ブームを水平状態にし、伸長操作にて AMC100%停止させ、作業半径を測る。
やむを得ずブームを立てて行なう場合は、上部操作で微速「伏」操作にて行なうこと。
※バスケット(プラットフォーム)の積載荷重は機種、または仕様によっても異なっているため各機種のデータを参照すること。
- 5) 規定の作業半径に達してもブームの作動が 100%停止しない場合は、作業半径が大きくなる側の操作は絶対にしないこと。

